

# 令和4年度事業計画

令和4年4月1日～令和5年3月31日

特定非営利活動法人NPOいきがいサロンオーリーブ

月	デイサービスオーリーブたかの台			ホームヘルパーオーリーブ (介護保険)			ホームヘルパーオーリーブ (障害者総合支援法)			NPO法人オーリーブ介護事業全体			月	こまくさの会(ボランティア事業)			
	令和3年度実績	令和4年度目標	目標達成	令和3年度実績	令和4年度目標	目標達成	令和3年度実績	令和4年度目標	目標達成	令和3年度実績	令和4年度目標	目標達成		こまくさの事業(令和4年度)			
													事業名	令和3年度実績	令和4年度目標	備考欄	
4月	3,014,822	3,200,000	106.1%	2,081,269	1,710,000	82.2%	26,563	0	0.0%	5,122,654	4,910,000	95.8%	4月				
5月	2,913,463	3,300,000	113.3%	1,980,992	1,500,000	75.7%	26,563	0	0.0%	4,921,018	4,800,000	97.5%	5月	1. こまくさの会(サロン)	6 回	9 回	
6月	2,836,676	3,350,000	118.1%	2,145,368	1,500,000	69.9%	38,792	0	0.0%	5,020,836	4,850,000	96.6%	6月	2. こまくさの会(家族会)	4 回	9 回	
7月	3,083,926	3,450,000	111.9%	2,373,748	1,600,000	67.4%	77,445	0	0.0%	5,535,119	5,050,000	91.2%	7月	3. ちょっとしたお手伝い	5 回	9 回	
8月	2,835,452	3,500,000	123.4%	2,219,158	1,650,000	74.4%	72,743	0	0.0%	5,127,353	5,150,000	100.4%	8月	4. 災害支援			祈無災害
9月	2,937,381	3,500,000	119.2%	2,046,657	1,700,000	83.1%	52,995	15,000	28.3%	5,037,033	5,215,000	103.5%	9月	5. カラオケ	0 回	8 回	
上期	17,621,720	20,300,000	115.2%	12,847,192	9,660,000	75.2%	295,101	15,000	5.1%	30,764,013	29,975,000	97.4%	上期	6. ハイキング	1 回	9 回	
10月	3,164,710	3,600,000	113.8%	2,092,315	1,750,000	83.6%	45,365	15,000	33.1%	5,302,390	5,365,000	101.2%	10月	7. 寄付金			
11月	3,275,678	3,650,000	111.4%	2,093,513	1,780,000	85.0%	57,431	15,000	26.1%	5,426,622	5,445,000	100.3%	11月				
12月	2,939,969	3,700,000	125.9%	2,099,216	1,800,000	85.7%	17,941	15,000	83.6%	5,057,126	5,515,000	109.1%	12月				
1月	2,783,328	3,700,000	132.9%	1,907,563	1,800,000	94.4%	61,987	15,000	24.2%	4,752,878	5,515,000	116.0%	1月				
2月	2,588,842	3,700,000	142.9%	1,882,119	1,800,000	95.6%	40,199	15,000	37.3%	4,511,160	5,515,000	122.3%	2月				
3月	3,151,140	3,800,000	120.6%	2,143,644	1,900,000	88.8%	28,165	20,000	71.0%	5,322,949	5,720,000	107.5%	3月				
下期	17,903,667	22,150,000	123.7%	12,218,370	10,830,000	88.6%	251,088	95,000	37.8%	30,373,125	33,075,000	108.9%	下期				
事業所合計	35,525,387	42,450,000	119.5%	25,065,562	20,490,000	81.7%	546,189	110,000	20.1%	61,137,138	63,050,000	103.1%	事業所合計				
内	1 目標 ①対前年比 119.5% 半期 上期 115.2% 下期 123.7% ② 若者の重症化リスクが低い事やウィズコロナの風潮が進むにつれ、基礎疾患を持つ方や高齢者などへの感染機会と外出へのリスクは高まってきていると考えるが、現状維持を続けながら、新規利用者を獲得していく必要がある。 ③ 利用者目標(名寄せ) 年間を通じ登録者65名以上、平均利用者を20人以上を目標とするが、前年度末は月間平均利用者は13.8人。採算ラインの17名をまずの目標とする。 2 新規利用者獲得に向けた取り組み ① 継続して居宅介護支援事業所への営業を行い、紹介の取付と見学希望者を増やす営業努力を行う ② ホームページとブログの活用。各月各居宅事業所へのお便りを送付する。 ③ 過去の利用者へのフォロー継続。再利用の獲得を目指す。 3. 課題 ① 新型コロナウイルス感染予防への取り組みを継続する。基本的な感染症対策に加えて、フレイル(虚弱)対策もおこない自律神経の低下を予防し、ご利用者、ご家族、ボランティア、職員スタッフへの「感染しない」「感染させない」「感染者を出さない」の取り組みを継続する。 ② 主任相談員、フルタイムの介護職員の育成。介護福祉士の資格を持ち現場の中心となる女性職員の獲得。 ③ 研修の充実化と職員スタッフのスキルアップ。Zoomやインターネットなどによる研修取り組みも行う。 ④ ケアマネジャーとの信頼関係強化。密な報告や相談を通じて継続した新規利用者の紹介へつなぐ。 ⑤ ご利用者様やご家族様、ケアマネジャーと直接対面できる営業機会を増やす。宣伝や紹介へつなげる。 ⑥ オーリーブの独自色の宣伝。男性登録利用者が多数を占めている点を引き続きアピールする。			1 目標 ①対前年比 81.7% 半期 上期 75.2% 下期 88.6% ② 目標設定はサ責の交代により現状より低めの設定となった。上期はサ責の採用に重点を置き、サ責3名体制を目指す。 ③ 現状は、要介護18名、要支援22名と支援の利用者が多い。今年には要介護の利用者を積極的にいきたい。自費の利用者も介護保険に移行すると考えられる限り対応したい。 2. 目標達成に向けた取り組み ① 新型コロナウイルスの感染予防に引き続き取り組み、職員・ヘルパーも気持ちを緩めることなく活動を維持していく。消毒液やマスクの配布は毎日行い、うがい、手洗い、エプロンや衣類の洗濯を頻繁に行っていく。 ② 目標達成に向けては、サ責・ヘルパーの採用が必須なので、知り合いや、職員、スタッフ、ボランティアの方々への声かけや依頼を継続していく。 ③ 各居宅からの新規依頼に対応できるようヘルパーの育成を今後も行っていく。 ④ 介護福祉士の資格保持者のヘルパーの絶対数が不足している。いかに増やすかを常に考え取り組んでいく。 ⑤ 資格者の採用、現登録のヘルパーの中から資格取得を支援しヘルパー全体のスキルアップを図る。 ⑥ 営業活動は、日頃より、ケアマネとのコミュニケーションを大切にし、利用者の情報及びサービスの提案等話し合いながら良好な関係を築いていく。 ⑦ 早急にサ責の育成を図り、昨年の実績を達成できる体制を作る。			1 目標 ①対前年比 20.1% 半期 上期 5.1% 下期 37.8% ② 昨年度の利用者が終了したため利用者はゼロになった。新規利用者の確保を目指す。 2 課題 ① 障害者の方に対応できるヘルパーが少なく厳しい状態が続いているので今後資格保持者のヘルパー採用と研修等を通じて育成していく。 ② 居宅や市との連携を図りながら内容を精査して対応出来るような取り組みを行っていく。 ③ 現ヘルパーの資格での対応が可能な居宅介護や重度訪問介護の利用者確保を目指す。			1 目標 ①対前年比 103.1% 半期 上期 97.4% 下期 108.9% ② 訪問の目標が対前年上期75%、これはサ責1名退社により訪問の利用者24名を他社に移管したことにより対前年を下回る目標設定になった。下期、上期のマイナスをどれだけカバーできるかである。 通所の目標は過去2年間のマイナスは大きかったので絶対死守しなければならない。コロナ禍で大変ではあるが諸施策打ち、目標達成を切望する。 2. 課題 ① 訪問は、サ責1名退社により1名体制になった。サ責は3名体制が基本であり、1名故障が起きて他の2名で対応し即1名の採用を確保すれば利用者他社に譲ることはないが、ヘルパーの仕事量を減らすこともない。2名のサ責採用と育成を行い下期は、上期のマイナスをカバーできる体制を敷く。 ② 通所は、通所は、毎月複数の利用者をいかに確保するかが目標達成に繋がることを常に自覚し、職員スタッフ一丸となり、より良いサービスをいかに提供できるかである。満足できるサービスを提供できることを切望する。 細見施設長は、3年目を迎え通所の運営を任せるようになってきた。あと細見施設長に求めることは、経営幹部に必要な4つの能力を高めて、事業全体を把握し適切な判断ができるようになることを期待する。職員スタッフの育成も意識の変革を図り、素早く対応し結果を残す、ヒューマンスキル(対人関係能力・コミュニケーション力・ヒアリング力・交渉力)の高い職員育成を目指すこと。 ③ 令和3年度介護報酬改定における改定事項について、2024年から介護事業でのBCP策定が義務づけられました。BCP: Business Continuity Plan(業務継続計画)とは、大地震等の自然災害、感染症の蔓延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン(供給網)の途絶、突発的な経営環境の変化など不足の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い時間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のことです。綿密な計画作成が求められています。今年度から取り掛かれないと間に合いません。通所、訪問、即、取り掛かることを指示します。			④ こまくさの会とボランティア育成 こまくさの会も、コロナ禍で自費が続きましたが、高齢者・障害者の健康維持、いきがいに貢献するのが目的です。新型コロナワクチンも2回、3回と進み中で自費を続けることは、体力減退、いきがい喪失、認知症発症に繋がります。活動を推進することが必要である。もちろん感染予防には充分対応することです。 ボランティアも平成22年には84名、平成26年は100名、平成28年73名、平成30年59名、令和3年26名、今年18名(ボランティア保険加入者)と激減しました。ボランティアの方々の高齢化も進みコロナ禍の中ですが、ボランティアの方々の支援(近隣の情報提供も含め)がオーリーブの運営に多大な貢献を頂いたのも事実、ボランティアは、オーリーブの宝です。ボランティアになって頂く方を常に心がけてお願いし増やしていかなければならない。こまくさの会を支援頂くためにも必要です。声掛けをお願いします。				
	内容	目標 新型コロナウイルスの感染拡大による蔓延防止等重点措置の発令が今年度も懸念されることから、「サロン」「家族会」「カラオケ」でも中止の選択を迫られる場合もあるが、参加者の高齢者が、引きこもりや会話不足による認知機能の喪失につながらないよう、設立時の趣旨である「人間としての誇りと生きがいを持ち、精一杯人生を謳歌できる人間性豊かな地域社会を作るため」の創設に、引き続き支援します。 サロンは、高齢者の方々の社交の場であり、新型コロナに影響を受けやすい、一人暮らしの方や高齢者世帯の方々が、お茶を飲みながら自由に発言できる貴重な場所であるため、その提供に引き続き努力します。 家族会は、現在介護されている方、過去に介護の経験を持つ方の集いの場ですが、現在の参加者に対象者が減少しており、サロンと家族会の垣根を低くして開催していきます。様々な体験談を話したり聞いたりする中で、これからの生活の質の向上につながるよう、介護・医療・役所などの専門的な知識の提供もできるようにして参ります。 ちょっとしたお手伝いは、超高齢化が進む中で、高齢者、障害者のQOL(「よりよく生きる」という「生活の質」)を支援する大切な活動であり、活動の輪を広げることが重要です。安否確認や電球の交換、ちょっとした家具の移動や、買物など、身近なお困りごとの支援がQOLを良くし生きがいに繋がります。多くの方々へ提供できるように新型コロナウイルスの感染を防止しながら活動していきます。 災害地への支援及び支援金 今年も自然災害が多く発生することが予想されます。災害の都度迅速にスタッフと打合せを行い、支援物資や義援金を集めたり、ボランティアの派遣等を検討しますが、活動資金が必要で、1口3,000円の寄付者を一人でも多く集め災害支援ができるよう努めてまいります。 カラオケは、心身に健康効果をもたらします。効果は、ストレス解消、認知予防、ダイエット、腹筋・横隔膜・胸筋・舌筋を鍛える運動、血液循環・新陳代謝がよくなり、自律神経のバランスが整い免疫力がアップなど、高齢者の健康を奪うのではなく健康を与えるのがオーリーブのカラオケです。コロナ対策を充分に行い実施に向け取り組んでまいります。 ウォーキングは、高齢者の健康増進に寄与します。まず外に出る機会、歩く運動、仲間と会話、ともに食事する喜び、小平市や近郊には、玉川上水をはじめウォーキングに適した場所が多くあります。お花や緑の風景は、リラックス効果とイライラ緩和効果があることが分かっています。リラックス状態で高まる副交感神経活動が活発になり、ストレス状態で高まる交感神経活動が抑制され、脳前頭 前野活動も鎮静化します。健康増進に繋がる活動を提供するのがこまくさの役目です。新型コロナウイルスの沈黙を見極めながら実施していきます。 こまくさの会「サロン・家族会・カラオケ」は、地域に根差した活動を推進してきましたが、新型コロナウイルスの影響を受けつつ、高齢者や障がい者の拠り所となるよう、会長をはじめ運営スタッフの努力によって運営していきます。「ちょっとしたお手伝い」「ウォーキング」も生活支援、健康の維持を目的に実施します。 運営資金は、寄付金が拠り所です。会の運営に必要不可欠なため、資金不足を避けるため、今後も寄付金年間100名以上の達成に努力します。															